

第2期館林市子ども・子育て支援事業計画案への意見に対する回答一覧

No.	意見	回答	担当課
1	P18の妊婦健康診査の項目で、妊婦出産届出時に一人当たり14回分の受診票の交付とありますが、現在館林市で出産できる産院は少なく、市外、あるいは県外の病院を受診する方が多いと聞きます。市外、県外でも、受診票は有効なののでしょうか？	妊婦健康診査は県内全ての医療機関で受診票が使用できます。また、県外でも本市の妊婦さんの利用が多い医療機関とは個別に契約を結び受診票が利用できるようにしています。また、遠方の里帰り出産については、償還払いで対応しています。	健康推進課
2	誤字だと思うのですが、P20 実施期間 → 実施機関ではないですか？	修正しました。	こども福祉課
3	前回の子ども子育て支援事業計画のように、カットを入れたり、行間を取ったりして見やすい工夫をしてほしいです。	今後、検討していきます。	こども福祉課
4	① 放課後子ども教室の実現 ・県内での実施状況調査と好事例の研究・視察の実施 ・関係者による検討会議 ・実施内容 ・モデル校の選定 ・モデル校関係者を含めた推進会議 ・実行手順、運営規定 ・ボランティア募集方法 ・モデル校運営開始 ・検討会議、推進会議の合同の評価会議 ・実施状況の評価 ・実施校の拡大策の検討	計画案に盛り込みます。	生涯学習課
5	延長保育事業について 延長保育に関して、夕方まで延長されましたが、朝の時間帯で30分早く午前7時30分から預けられるとなると、働ける女性が増える。 ※養護教諭の負担も増えるのもつらいと思いますがあくまで意見として	市立幼稚園の預かり保育の時間延長（朝）については、幼稚園教諭等の配置人数の関係もあり、現在の職員数の中での対応は難しい面があります。	学校教育課
6	病児保育事業について 令和元年度の利用実績が急激に増えたのはなぜですか？	利用実績が確定していないため、現状では策定済の子ども・子育て支援事業計画の見込み量を掲載しております。利用実績が確定しましたら数値を変更いたします。 なお、4月から9月までの利用実績を確認したところ、129人という報告がありましたので、令和元年度の利用実績としては300人程度となる見込みです。	こども福祉課
7	児童手当支給事業について 未就学児から年が上がる度に支給額を上げてほしい。現状、未就学児1万5千円ここから中学生までには支給額が下がっていく事業。	児童手当支給事業は国の制度に沿って実施している事業であるため、市で独自に支給金額を変更することはできません。	こども福祉課
8	産後ケア事業について 利用期間が現在2ヶ月未満となっていますが、首がすわる4ヶ月になると利用しやすい。2ヶ月だとあっという間に期間が過ぎ、利用出来ずに終了してしまう。また、上の子（未就学児）は預けられないため利用を躊躇してしまう。	生後4か月まで利用できるのが理想ですが、産婦人科、小児科を備えた医療機関が少なく、受け入れ態勢が整わないため実施できる医療機関が限られています。このため、より支援が必要な新生児から2か月児を対象としています。今後、近隣の医療機関の体制整備の状況をみながら検討します。 また、上のお子さんについては感染症予防の観点から一緒には預かれないため、一時預かりやファミリー・サポートセンターの利用案内等を行っています。	健康推進課

No.	意見	回答	担当課
9	<p>予防接種事業について 保健所から頂ける予防接種のスケジュールを3歳まで記載していただけないか。 現在ぼんちゃんの予防接種☆子育てナビを利用している方がいますが、初期の入力、またその後も入力することが多く、もう少し簡素化出来るものがあれば良かったですら良い。</p>	<p>予防接種については、出生時に「予防接種と子どもの健康」という冊子を配布しており、20歳までのスケジュールが掲載されています。また、特に接種するものが多い乳幼児期の予防接種については『予防接種予診票つづり』にスケジュールを記載しています。乳幼児健康診査の際には接種の有無を個別に確認し指導をしています。 ぼんちゃんの予防接種☆子育てナビについては、妊娠届出時、新生児訪問時に入力の方法についても案内し支援をしています。</p>	健康推進課
10	<p>ママ・パパ学級について 出産期までにおこる母胎の危険性等指導することも大切に感じる。(特にパパ)</p>	<p>ママパパ学級には約半数のプレパパが参加していただいています。産科医師による講話では、妊娠中に起こりうる合併症やその予防について等をお話しています。また、妊娠経過にそってパパや家族が支援していただきたいこと、産後のうつ症状について等講話を行っています。</p>	健康推進課
11	<p>基本理念の中で支援、情報提供を、全ての人に伝えるにはどうすべきか考えて行かなければと思います。 例えば孤立している家庭(相談、交流の場に出てこない等)・とぎれる事の無い支援の為に妊娠出産～学校生活まで各機関の連携が必要であると感じています。 民生委員、主任児童委員として感じる事は、地域、各機関等により得られる情報がまちまち、格差があります。要対協のような重篤な問題になる前に支援ができればと思います。 漏れのなく迅速な情報共有は、大切(必要)だと思います。</p>	<p>得られる情報の格差については、各機関それぞれに課されている個人情報保護の義務によるものが大きいと思います。児童虐待等で要対協管理ケースとなると関係機関で情報共有ができますが、ご指摘のとおり本来はそうならないような予防的支援が重要です。しかし、当事者自身の周囲に知られたくない等の思いもあるため、うまく情報共有ができないケースもあるのが現状のようです。 地域を知る民生委員、主任児童委員のみなさまには重要な予防、また発見等の日々の見守りをお願いしているところですので、今後も気になる点はこども福祉課にご相談いただければ一緒に対応いたします。</p>	こども福祉課
12	<p>基本目標2に関して ・妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援 →外国人や転入者に対するフォローを具体化? 国際交流団体や市民課との情報共有 区長さんから民生委員さん、母子保健推進委員さんにつないでもらう 市の子育てサービスを紹介する担当者を紹介し、数か月フォローを *海外で暮らした経験、転入者として子育てを始める経験をしましたのでこういった不便、情報の少なさ、頼れる場所のなさなどを市政で補っていただけるとはとても心強いと思います。 移住者受け入れの計画も市として今後強化するのであれば、そういった外部からの転入者を取りこぼさずに支援をできることが重要であると思います。</p>	<p>外国人の方に対しては外国語版の母子健康手帳や予防接種ガイドを配布し説明をしています。 また、子育て支援モバイルサービス「ぼんちゃんの予防接種☆子育てナビ」は20か国語に対応しており、予防接種や乳幼児健診のお知らせ、感染症流行情報、医療機関検索などを行うことができます。 予防接種や乳幼児健康診査を未受診の場合は母子保健推進員や担当者からご案内をさせていただきます。ただし、外国人の情報を区長さんや民生委員さんに提供することについては個人情報保護の観点から難しい状況です。 現在、転入者及び移住者の方への支援としては、それぞれの世代、個々のニーズにあわせて、既存のさまざまな市の施策事業をぜひとも活用していただきたいと考えます。さらに、外国人の方には5か国語による外国人の相談窓口、子育て世代には子どもの総合相談窓口等、各関係機関が手つなぎをし、必要な支援が届くよう縦割りではなく、横の連携をさらに強化してまいります。</p>	<p>こども福祉課 健康推進課 (企画課) (市民協働課)</p>

No.	意見	回答	担当課
13	<p>基本目標3に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と子育ての両立支援環境 <ul style="list-style-type: none"> →地域で子どもを育てる場のとりまとめをしていく？ ・普段から地域にどのような子どもがいて、どのような大人に頼れるのかをわかるような交流の機会を持るとよいのではないのでしょうか。 ・例えば、おばあちゃんの知恵袋教室（地域の高齢者と子育て期ママの交流）、夏休み・放課後料理教室（高齢者と小学生・中学生の交流）、幼稚園・保育園利用ママと未就学児ママの交流会（仕事と子育ての両立を相談）、など、本来の目的は別に設定しても、繰り返し顔を合わせることで地域のつながりができてくるのではないかと考えます。 ・子どもの安全のための支援 <ul style="list-style-type: none"> →海外転入者にもわかるような安全対策は？ <p>先月の台風の避難について、言語サービスはもちろん事前に災害教育や避難場所の提示をしたり、普段からの地域との交流を深めていけるような機会を持つとよいのではないのでしょうか。</p> <p>異文化交流で扱わないような、しかし命に係わるようなことを外国の方にも理解していただける機会を、今後は持つようにしていくべきと考えます。（主に保護者対象となるかもしれませんが、．．）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園利用ママと未就学児ママとの交流会 <ul style="list-style-type: none"> 現在予定はありません。今後の参考とさせていただきます。 ・海外転入者にもわかるような安全対策 <ul style="list-style-type: none"> 学校教育においては、避難訓練や災害時の引渡訓練等に重点を置いた安全指導が積極的に行われています。今後は、海外転入者、特に外国籍の児童・生徒にもよく理解できるように、各学校への指導に努めてまいります。 2年前に外国人のための防災訓練を県の事業として公民館で開催しました。その際に災害時の通訳ボランティアの養成も行いました。これがきっかけとなり、現在もこの取り組みが引き継がれています。 また、ハザードブック電子版4か国語版が今年度中に完成します。（中国・ベトナム・フィリピン・ミャンマー）必要な方へ必要な支援を行っていきます。 	<p>こども福祉課 学校教育課 生涯学習課 (安全安心課)</p>
14	<p>P13 (3) 質の高い～ 最終行の「民間活力の導入」とは？</p> <p>具体的に、例を挙げて説明していただきたいと思いました。</p>	<p>独自のカリキュラムや特別保育の実施など、特色ある保育を実施する私立保育園を増やすことで、多様な選択肢中から保護者の思いに合致する園が選択できるように、公立保育園の一部民営化を検討していくというものです。</p>	<p>こども福祉課</p>
15	<p>現在の計画では、インターネットを利用した子育てサービスは「ぼんちゃん子育てナビ」となっておりますが情報提供は、タイムリーであっていただきたいと思っております。</p> <p>どの地域で、何歳くらいの子ども対象なのか、といった検索条件で情報が探せるような工夫もされていくとより便利かと思えます。</p> <p>先日の調査から見えていたのは、「市の情報提供の拙さ」が「市民の認知度を下げ」てしまっていて、本来、市として提供可能であるのに（例えば、公園の数はかなりあると思いますが）、市民としては知らない（わからない）ので、「もっと公園があればよい」といったようなミスマッチが起きているように感じました。</p> <p>子育てフォローのサービスも、全国レベルと差異があるとは感じられないのにそれをきちんと認識されていない（例えば、ファミサポの認知度は？病児預かりは？）のは大変もったいないことであると思えました。</p> <p>きちんと知らせることは、とても大事なことでと思いますので、知らせる方法（手法）に工夫を凝らしていただきたいと思えます。</p> <p>（せっかくの市の事業を無駄にするのはもったいないですし、市役所の方々の努力を広く知ってもらいたいと思えます）</p>	<p>ぼんちゃんの子育てナビにおいて、こども福祉課では今年度より、メールマガジン配信サービスにて、手続き期日等のほか、イベント等のお知らせなどの情報配信を開始しましたが、ご指摘のとおりまだまだ発信する情報が少ないというのが現状です。</p> <p>メールマガジンは、子どもの生年月日等に合った情報を受動的に得られるツールでありとても便利なものですので、SNSと併せて積極的に活用していけるよう努力していきます。</p> <p>公園の周知については、新しく刷新される「ぼんちゃんの子育て応援ガイド」反映される予定です。また、現在、ツイッターの活用にも力を入れています。タイムリーな情報発信にはツイッターが有効です。</p> <p>例えば、「本日、子ども・子育て会議を開催しました」、「ファミサポまかせて会員講習会を開催しました」など、細目な情報発信をし、少しずつでも市民にたくさんの子育て支援の情報が広がるよう努めてまいります。</p>	<p>こども福祉課 (秘書課)</p>